

荒井会計通信



発行日 平成 18年5月11日(木)
発行者 〒162-0825
東京都新宿区神楽坂 3-1-17
ハイポイントビル5階
荒井会計事務所
TEL 03-3235-5180
FAX 03-3235-5190

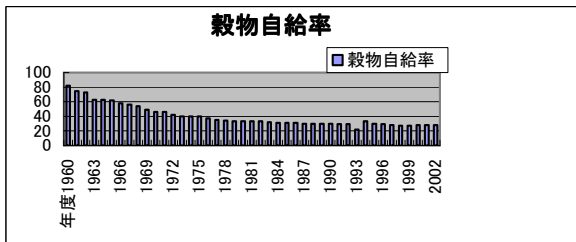
緑かがやき、風さわやかな季節がやって来ました。さて今月より荒井会計通信を毎月1~2回発行し、得意先の皆様にFAXで送付することに致しました。昨年11月に荒井会計独自のセミナーを開催しました。このとき感じたことは、我々が税務会計業務を通して、蓄積した知識、経験等をなるべくこまめに皆様方に伝達することは、大事なことだと実感しました。会計通信内容は、事務所スタッフが輪番制で作成いたしますので、ご迷惑をお掛けするかと思いますが、やる気と情熱をもってカバーしたいと思います。

荒井昇の辛口コラム①

【不安な時代】

昨年からの株式市場の好転、原油等資源のインフレ(軽度のインフレは経済に追い風である。)等により、最近では日本経済も微かに立ち直りの兆しが見えてきました。しかし国民生活はバブル経済崩壊後ここ14~15年右肩下がり、家計の可処分所得は毎年減り続けています。企業の業績・内容もまだ病み上がりの状態で、中小企業のほとんどは将来の具体的構想・布石を持つには程遠く、その年(日?)暮らしの状態です。

その中で将来性があるといわれているのは自動車やIT産業等の先端技術ぐらいで、第一次・第二次産業はほぼ空洞化してしまい、ほとんどが輸入に頼っています。



人類の歴史から見ても生産しない国家が繁栄したことはありません、逆に国家存亡の危機です。

今後は高齢者社会・少子化に伴い国民の負担はますます増えてきます。昨年11月に開催したセミナーでご説明したように、日本の財政は既に破綻してしまっています(家計でいえば破産状態)。5年にわたり「規制緩和」という言葉を旗印に小泉パフォーマンス内閣は、自民党だけでなく日本の産業・国家自体も破壊してしまったようです。

【将来の展望】

不安の時代を我々はどうやって生き抜き、将来豊かで安定した時代を一日でも早く実現するのか。

ここで話はちょっと遡りますが、日本が第二次世界大戦に敗れた時に、日本の戦争指導者を裁く東京裁判が、マッカーサー連合軍最高司令官の命令により行われました。東京裁判はそれ以前の国際裁判よりも戦争犯罪の解釈を

ア 広げ、戦争指導者の責任を追及することを明確にしました。日本側の弁護団は「戦争は国家の行為であって個人を裁くことは出来ない」などと主張したが裁判官は認めず、この結果東条英機首相始め7人が絞首刑に処せられた。では経済の崩壊の責任はだれがとるのか?

次号につづく

※前澤三恵の日日是好日※

【春はガーデニングの時期】

私は、ガーデニングが大好きで、4月から5月にかけてのこの時期の休日の過ごし方は、いつもベランダでの土いじり。鉢の植え替えなどを行っているうちに、あつという間に時間が経ってしまいます。

植え替えというのは、一度植物を鉢から出して、古い根を切り、少しだけ大き目の鉢に植える作業です。根が傷むと枯れる可能性があるため、気候の良い時期に行う必要があります。それでも植え替えをするのは、ほっておくと株そのものが弱くなり、いつの日か枯れ始めるからです。

さて、植え替えのポイントは「少しだけ大き目の鉢」というところにあります。

いつまでも同じ大きさの鉢では、根詰まりを起こしますし、植え替えするのが面倒だからといって大きすぎる鉢に植替えると、根が腐ったりしてうまく育たなかったりするので。

これって、人が成長するというだけでも同じことのように思います。同じ仕事をしていれば、その仕事に慣れ、巧くできるようになりますが、そのまま同じことをしていると、いつの間にか、成長が止まり、根が腐り始めることもあるでしょう。常に、自分の今の力量よりもほんの少しだけ大きい挑戦をしてみるというのが、変化に対応し、生き生きと仕事をするために必要なことなのではないでしょうか?

